

1 キャリア教育について

キャリア教育とは

1. キャリア教育の必要性

今日、少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進む中、就職・進学を問わず、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。また、教育を取り巻く環境も大きく変化してきており、これら社会と教育の動向から若者をめぐる様々な課題が浮かび上がっている。一方、若者の勤労観、職業観の未成熟や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さなどについても各方面から指摘されている。

このような中で、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人、職業人として自立していくことができるようにする教育の推進が強く求められている。

学校から社会への移行をめぐる課題

- ①就職・就業をめぐる環境の激変
 - ・新規学卒者に対する求人状況の変動
 - ・求職希望と求人希望との不適合の拡大
 - ・雇用システムの変化
- ②若者自身の資質等をめぐる課題
 - ・勤労観、職業観の未熟さ
 - ・社会人・職業人としての基礎的資質・能力が未成熟
 - ・社会の一員としての意識の希薄さ

子どもたちの生活・意識の変容

- ①子どもたちの成長・発達上の課題
 - ・身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向
 - ・働くことや生きることへの関心、意欲の低下
- ②高学歴社会におけるモラトリアム傾向
 - ・職業について考えることや、職業の選択・決定を先送りにするモラトリアム傾向の高まり
 - ・進路意識や目的意識が希薄なまま、進学・就職する者の増加

学校教育に求められている課題

「生きる力」の育成

- 確かな学力、豊かな人間性、健康・体力—
 - ・学校の学習と社会とを関連付けた教育
 - ・生涯にわたって学び続ける意欲
 - ・社会人・職業人としての基礎的な資質・能力
 - ・自然体験、社会体験等の充実
 - ・発達に応じた指導の継続性
 - ・家庭・地域と連携した教育

キャリア教育の推進

- ・望ましい勤労観、職業観の育成
- ・一人一人の発達に応じた指導
- ・小・中・高を通じた組織的・系統的な取組
- ・職場体験・インターンシップ等の充実

2. キャリア教育の定義

ア キャリア教育とは

「キャリア概念」に基づいて「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育。」端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」

(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書)

また、キャリア教育について、平成11年12月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」では「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」としている。

今日の若者の様々な課題を解決していくためには児童生徒一人一人が自らの責任で、キャリアを選択・決定していくことができるよう、必要な能力・態度を身に付けていく教育が強く求められている。

とりわけ、初等中等教育段階では、子どもたちの発達段階やそれぞれの時期に応じた課題を達成していくためにも、一人一人の「キャリア発達」を支援していくことが重要となる。ここでいう「キャリア」、「キャリア発達」については「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書(平成16年1月28日)」(以後「キャリア教育報告書」とする)等から、本手引では次のようにまとめた。

イ キャリアとは

「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」

「キャリア」とは、一般に生涯にわたる経歴、専門的スキルを要する職業についていることなどのほか、解釈、意味付けは多様であるが、その中でも共通する概念と意味がある。それは「キャリア」が「個人」と「働くこと」との関係の上に成立する概念であり、個人から切り離して考えられないということである。また「働くこと」については、職業生活以外にも家事や学校での係活動、あるいは、ボランティア活動などの多様な活動があることなどから、個人がその学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等のすべての生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広くとらえる必要がある。

ウ キャリア発達とは

発達とは生涯にわたる変化の過程であり、人が環境に適応する能力を獲得していく過程である。その中で、キャリア発達とは、自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程である。

具体的には、過去、現在、将来の自分を考えて、社会の中で果たす役割や生き方を展望し、実現することがキャリア発達の過程である。D. E. スーパーは、この過程を生涯における役割の分化と統合の過程として示している。

自分の過去・現在・将来を見据え、社会との関係の中で自分らしい生き方を展望し実現していくことは、自己の確立として青年期の発達課題とされてきたが、生涯にわたっての課題ととらえるべきである。人は、生涯のそれぞれの時期において、社会との相互関係の中で自分らしく生きようとする。そして、各時期にふさわしい個別的なキャリア発達の課題を達成していくことが、生涯を通じてのキャリア発達となる。キャリア教育は、そのような一人一人のキャリア発達を支援するものでなければならない。

3. キャリア教育の意義

子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにする教育の推進が強く求められている。

平成8年の「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（中央教育審議会）第一次答申」において、学校教育の基盤をなすものとして、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力など、「生きる力」が提唱され、その育成が強く求められてきた。「生きる力」を育成するという基本的な考え方に立ちつつ、学校教育に求められているのは「学ぶこと」と「働くこと」を関係付けながら、子どもたちに「生きること」の尊さを実感させる教育であり、社会的自立・職業的自立に向けた教育である。そのためには、児童生徒が社会の一員としての自己の存在を理解し、社会での職業や勤労及び学校での学習や諸活動に積極的にしかかわる意欲・態度を持つよう指導・援助することが大切となる。

学校教育においてキャリア教育を推進していくためには、その意義を明確にし、学校の教育活動全体を通して、組織的、系統的に取り組んでいくことが重要である。また、一人一人のキャリア発達を促していく視点から、今までの教育を見直していくことが求められている「キャリア教育報告書」では、各学校がキャリア教育に取り組む意義として、次の3点をあげている。各学校においてはこの意義を十分に踏まえ、学校全体として取り組めるよう工夫し、キャリア教育を進めていく必要がある。

各学校におけるキャリア教育に取り組む意義

(1) 教育改革の理念と方向性を示すキャリア教育

キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すものである。

(2) 子どもたちの「発達」を支援するキャリア教育

キャリア教育は、キャリアが子どもたちの発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、子どもたちの全人的な成長・発達を促す視点に立った取組を積極的に進めることである。

(3) 教育課程の改善を促すキャリア教育

キャリア教育は、子どもたちのキャリア発達を支援する観点に立って、各領域の関連する諸活動を体系化し計画的、組織的に実施することができるよう、各学校が教育課程編成の在り方を見直していくことである。

(引用一文部科学省「キャリア教育推進の手引き」平成18年11月)